

総合体育館大規模改修コンセプト

2021/09/10

2021年8月25日の会議より策定委員として考えるべきは、予算のもとに行う個別具体的な事案でなく、お題にいただいているように「コンセプト」であります。基本方針である「1：誰もがスポーツを楽しめる機会の創出」がこれまで議論されてきた上での大きなコンセプトです。また、先日の議論でも話題にあがりました「武蔵野モデル」において、私の考えはこちらも議論になりました「格差のないスポーツ機会がある地域」です。以上の2点にフォーカスし、改修内容を下記いたします。

記

1) 誰もがスポーツを楽しめる機会の創出

総合体育館の役割＝世代・障害・人種・趣味にとらわれず、多様なスポーツが出来る・観られる・交流できる施設である

	世代	障害	人種	趣味
出来る	快適	安心	多言語対応	esprts
	各更衣室内の利用人数を減らし、ゆとりを創出	使いやすい動線の確保	英語他の案内板や係員	wifiのみでなく、5Gおよび新通信規格の際の切り替えをしやすいとする
観られる	屋外	特別席	多種目	小会議室
	屋根の下で見られるスペース。観客用屋外トイレの設置。	アリーナや屋外で最上段でなく、一番近い場所にスペース確保	海外ではメジャーで日本では馴染みのないスポーツの開催	コミュニティの小さい競技でも観戦できる
交流できる	指導者育成場所	大会	外国人向け教室	部室
	高齢者指導者、若年指導者の育成と教室やイベント開催による交流。	障害者スポーツ大会が開催できる備品の保管場所	外国人の方が気軽に参加でき、出会う場の提供	競技人口少ない競技者が集える場所

2) 格差の解消

総合体育館の役割＝市民の誰もが知っていて、市民の誰もが使ったことがある

I 情報格差：知っている人しか使っていない印象。同世代のご家庭でも「藤村水泳教室」や「横河武蔵野スポーツクラブ」の話題はでも、総合体育館の話題がでることは稀である。ましてや、男女問わず高校卒業～社会人前半の方の認知度が低いと思う。→リニューアルを機にプロモーション。それに見合う施設とする。また、市役所よりプッシュ型で情報配信できるシステムを整備する

II 地域格差：境地域のスポーツ施設が少なく、スポーツができる機会に差が生じている。→無料循環バス（非ムーバス）の整備。マイクロバスが地域の住民センターなどと往復するイメージ。それにともう駐車場を敷地内に確保。一方、費用捻出が必要になるため、有償イベントの開催やプールの利用料値上げを検討。可能であれば、地域の方が相互で集まって来場するくらい交流を深める手助けができれば理想

III 機会格差：金銭的な理由はもちろん時間的な理由で、そもそも使えない人がいる。→IoTを活用し、早朝・深夜のYoutubeによる動画配信、esports大会の開催、武蔵野市チームの試合をweb上で同時観戦するなど場所と時間を柔軟に対応。総合体育館内にスタジオを設けて市民に配信できるようにする。

IV やる気格差：「そもそも運動音痴だし」「やっても勝てないし・・・」→気軽にできるスポーツを提供。例えば、ソフトバレーボールやポッチャなど。また、スケートボードやボルタリングなど球技でないスポーツも取り組めるようにする。これまで同様に小学校や中学校の補完的な利用も行い、月1回は体育の授業が総合体育館でできたらスポーツに苦手意識がある児童も好きになっていくかも

3) 改修に関する個人的な所見

- ・トレーニング室と民間スポーツ施設をうまく相互利用できないか
- ・駐輪場をつくってもいいのではないか
- ・「卓球場」は専用にする必要あるのか
- ・改修工事期間中（約1年間）の代替え施設を用意するか
- ・躯体は変えられない（大きさ・EV・階段など）ので、見た目（色）とファサードでどの程度うまくいけるかが大事。まずは見た目、次にソフト面。
- ・設計は「東畑建築事務所」？建築家でデザイナーなので利用者の意見をどれだけ反映できるか

以上